

## 第5章 学校給食由来の食品循環資源リサイクル取組活動事例に関する調査方法

### 5-1 はじめに

この章では、本研究で実施する調査内容について説明する。

### 5-2 調査対象の選定

調査対象は、第4章で定義した「ネットワーク自給自足型」に分類された30件のうち、電話ヒアリングで調査協力を依頼し、了解の得られた14件（例外1件7-4を除く）の取組事例とする。

### 5-3 調査の流れ

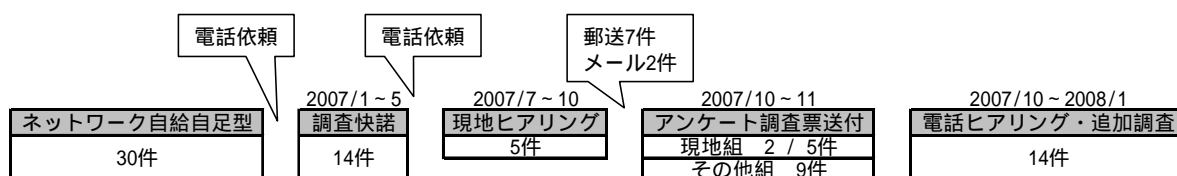


図 5-1 調査の流れ

### 5-4 調査方法

#### 5-4-1 現地ヒアリング調査

##### 5-4-1-1 調査対象

現地ヒアリング対象は、電話以来によって了解の得られた次の5件とする（表 5-1）。

表 5-1 現地ヒアリング調査対象一覧

取組実施地域	取組実施主体	調査日時
大阪府 豊中市	NPO 花と緑のネットワーク とよなか	2007年7月23日 2007年10月20日
岐阜県 岐阜市	岐阜市畜産センター エコプラント椿	2007年10月17日
神奈川県 横浜市	横浜農協食品循環型 はまぼーく出荷グループ	2007年10月26日
新潟県 長岡市	NPO 地域循環ネットワーク	2007年10月30日
東京都 世田谷区	東京農業大学 生産環境科学研究室	2007年10月31日

##### 5-4-1-2 調査方法

実際活動を実施している場所に出向き、取組主体と可能な限り関係組織に対して、用意した質問項目に沿ってヒアリング調査を実施、また、現地の写真撮影などを行う。

ヒアリング内容は、表 5-2 に示す。

表 5-2 現地ヒアリング調査における質問項目一覧

部構成	項目区分	調査項目
取組全般について	所属	当てはまる役割（活動の範囲）
		実施している再生利用方法
	取組実施概要	実施場所の地域性
		関係要素
		業務形態
		対象となる廃棄物
		再生利用製品の供給方法
製品についての詳細		
取組の背景・過程	発案について	発案者
		発案理由
	取組開始までに至る経緯	発案時期
		活動者選定について
		再生利用方法の決定経緯
		立ち上げ準備について
取組の特徴・成果	目的・効果	目的・期待される効果
		工夫点とその評価
	利点	学校給食由来の利点
	利点選択理由	
今後の課題	苦勞	苦勞
	取組の今後の課題	現在の再生利用方法の継続
		啓発運動
		成功条件
		波及効果
		今後の課題

#### 5-4-1-3 現地ヒアリング対象へのアンケート調査票の配布

事前に調査趣旨を伝える目的で各取組にアンケート調査票を配布。協力了解を得られた2件に関して、現地ヒアリング調査に加えてアンケート調査票の記入をしていただいた。

#### 5-4-2 アンケート調査票送付による調査

##### 5-4-2-1 調査対象

アンケート調査配布は、簡易電話ヒアリングで了承を得られた9件（現地ヒアリング調査対象の例外 5-4-1-3 も含めると11件）に対して行った。

##### 5-4-2-2 調査方法

簡易電話ヒアリングで調査協力意思の確認ができた取組主体に郵送（7件）メール（2件）アンケート調査票を送付。

アンケート調査票に沿って詳細を電話ヒアリングで調査。

アンケート調査票回収。

結果に基づく追加調査（電話・メール）。

### 5-4-2-3 アンケート調査項目

項目の選択肢は、事例 6-4-1 に予備ヒアリングを行った際の意見を参考に作成した。

#### 5-4-2-3-1 取組全般について

この項目では、取組の主体である調査対象の所属等に加えて、取組自体の概要について調査する。

##### (1) 所属について

A：自治体の担当部署 B：事務組合 C：NPO団体 D：市民会議 E：学校施設  
F：学校給食センター G：公立廃棄物処理施設 H：民間廃棄物処理施設 I：その他

##### (2) 当てはまる役割（複数選択）：（ = 主に実行するもの = 関係あるもの ）

表 5-3 取組主体の該当役割記入表

記号	役割区分	○
A	食品廃棄物の排出	
B	食品廃棄物の収集・運搬	
C	食品廃棄物の中間処理	
D	食品廃棄物の最終処分	
E	食品廃棄物の再生利用活動等の実施	
F	再生利用物の有料頒布・無料配布	
G	再生利用物の配達	
H	住民への啓発活動(体験活動等)	
I	住民への情報開示	
J	料金や制度の設定	
K	監査役	
L	生産物の利用	
M	その他( * )	

##### (3) 主に 再生利用活動場所 について。(地域性と敷地面積)

##### (4) 対象としている食品廃棄物

A：学校給食残渣 B：事業系厨芥（流通業や外食産業）  
C：家庭系厨芥（家庭・食堂・商店など） D：動植物性残渣（食品製造業）  
E：家畜糞尿 F：剪定枝 G：紙類 H：その他

##### (5) 業務状態について

##### (6) 取組活動の協力者等，関係している団体（食品廃棄物排出，廃棄物の収集・運搬，再生利用等関係者，利用者に区分わけ）

##### (7) 監査役について

##### (8) 再生利用における，食品廃棄物の 投入量，再生物の製造量，配布・頒布量 について（2002～2007の5年間）

- (9) 無料配布・有償頒布先について  
 A：教育施設（小・中・幼・保）    B：公立施設    C：公立農園  
 D：提携農家    E：イベント配布    F：その他
- (10) 無料配布・有償頒布動向について
- (11) 有料頒布での価格設定について
- (12) 製品の名前の有無，また名前の由来
- (13) 製品表示について
- (14) 製品原材料名の表示詳細
- (15) 収益の帰属先について

#### 5-4-2-3-2 取組開始までの背景・過程について

この項目では，取組の開始における背景や，現状に至る過程について調査する．

- (1) 発案者  
 A：首長    B：議員（議会）  
 C：自治体の直接関係する部署（環境関連）（農林水産関連）（教育関連）  
 D：県からの指示・指導    E：組合    F：民意・市民    G：その他
- (2) 発案理由として考えられるもの（複数回答 可）  
 A：食品リサイクル法の施行    B：環境意識の高まり    C：環境負荷の削減  
 D：ごみの減量    E：ごみ焼却コスト削減    F：行政からの要請    G：住民意見  
 H：市民活動の実践    I：その他
- (3) 活動開始時期について（活動開始時期・施設建設完成時期・施設稼動開始時期）．  
 ・・・・「学校給食由来の食品循環資源リサイクル」が発案され，その構想を実験等で  
 実施を開始した時期のことを指す．
- (4) 再生利用活動者決定経緯  
 A：取組の発案者が選定    B：有志を募った    C：運営状態によって変化    D：その他
- (5) 現在の再生利用方法決定経緯
- (6) 取組立ち上げ準備について
- (7) 補助金や資金調達方法について

#### 5-4-2-3-3 取組の特徴・成果について

この項目では取組や取組主体のかかげる目的を知り，それに順ずる成果について調べ，特徴を見出す．

- (1) 掲げている目的（該当 = 明文化された活動指標 = 記入 表 5-4）

表 5-4 取組の目的記入表

記号	目的区分	or
A	循環型社会活動の推進	
B	環境教育の推進	
C	食育の推進	
D	行政のイメージ向上	
E	環境負荷量の削減	
F	ごみ減量	
G	環境意識の向上	
H	住民意識の向上	
I	住民のモラル向上	
J	コスト削減	
K	売上げの増大	
L	その他	

- (2) 活動指標の設定・・・( \* )
- (3) 工夫している点・・・( \* )
- (4) 学校給食由来の食品循環資源を利用・使用することで、考えられる利点

表 5-5 取組における学校給食由来であることの利点記入法

記号	選択肢	
A	材料・調理の管理体制による住民の信頼(安全・安心)	
B	幼年期・学童期からの食育	
C	幼年期・学童期からの環境教育	
D	環境教育と食育の展開(体験型学習の充実)	
E	循環型社会活動の推進	
F	資源循環システムによる継続性	
G	地場産物の地場消費	
H	関係セクターの連携(コミュニティ)	
I	行政のイメージ向上	
J	環境負荷量の削減	
K	環境意識の向上	
L	住民の意識向上	
M	住民のモラル向上	
N	コスト削減	
O	売上げの増大	
P	ごみ減量	
Q	その他( )	

- (5) 利点として選んだ理由
- (6) 活動に取り組むにあたっての苦労点・・・( \* )

#### 5-4-2-3-4 今後の課題について

この項目では、現状における成功度や、成功条件等がどのように意識されているかを調査する。

(1) 現在の再生利用方法の継続性

(2) 成功条件

(3) 波及効果

\* 記入方法詳細

目的指標

明文化されている目的指標について、「目的・期待される効果」で選択した種類区分にしたがって詳細を記入。

表 5-6 の記入例

区分記号	指標名	再生利用堆肥で環境教育！残食率の5%低下！
B	内容説明	食品が循環していることを理解し、食べ残しを減らすために芋の苗植えに再生利用堆肥を使用し、食品の生産から消費の流れを実感してもらおう。

目的指標に関する具体的な工夫 : 記入方法

目的指標を踏まえた、実際活動している中での工夫している点について、その取り組みの該当する過程の種類を選択肢の中から選択し( ), 具体的な内容の記入を行ってもらおう。加えてその成果について、次( )の評価項目において取組の現状の詳細を明確にする。

選択記号一覧

- A : 学校給食の食品廃棄物の回収過程について
- B : 再生利用・処理過程について
- C : 再生利用物の供給先について
- D : 地域内のコミュニケーションについて
- E : 市民・学生・園児への啓発運動について
- F : 活動地域ならではの特性利用
- G : その他

- : 必要性・・・取組活動全体に対して掲げた目的の妥当性
- : 有効性・・・数値等で証明される成果など成功度
- : 妥当性・・・目的に対して行った手段の妥当性
- : 効率性・・・出た成果に対しての取り組みへの労力・立ち回り等の割合

これら4つの項目に関して、

大いにある ・ ある ・ やや欠けている ・ ない

という評価レベルに分けて、可能な範囲内で判断し、記入。(表 5-7)

表 5-7 取組における具体的な工夫の記入例

選択記号	取組開始年月		対象	
C	2007年	10月	提携農家	
	取組期間 1年3ヶ月			
取組内容	農家に再生利用堆肥を使用してもらうための実演販売。 堆肥の良質さや、循環資源としての意識を持ってもらうために、学校給食から回収している過程や、堆肥化している環境の良さをボードに表示して説明会を月に1回実施している。			
成果判定	: 必要性	: 有効性	: 妥当性	: 効率性
~ 記入				
成果内容	再生利用堆肥を使用したいという農家が増えただけでなく、生産物を学校給食に供給したいという声も上がっている。有効性が大いにあると思った理由は、請求農家の数が半年で2倍になったため。			

苦勞

活動に取り組むにあたって苦勞された点について。

設定された項目の中で、

未経験による苦勞があったものは、「未」の欄に を。

法律・仕組み上の苦勞があったものは、「法」の欄に を。

事務的な苦勞があったものは「事」の欄に を。

実施上に苦勞があったものは「実」の欄に を。 それぞれ記入。(表 5-8)

表 5-8 取組における苦勞についての記入例

記号	項目	未	法	事	実
A	再生利用方法の設定				
B	再生利用方法の確立				
C	再生利用実験				
D	廃棄物の主な回収源の範囲設定				
E	廃棄物の回収量の安定性				
F	廃棄物の回収量減でのジレンマ				
G	廃棄物の運搬について				
H	生産物の主な供給先の範囲設定				
I	生産物の供給の安定性				
J	堆肥内の必要成分量の確保				
K	施設建設計画の立ち上げ				
L	市民からの理解を得るまで				
M	市民への啓発活動				
N	市民への情報開示				
O	料金の設定や制度の設定				
P	運営にあたっての会計				
Q	食育の推進				
R	環境教育の推進				
S	体験型学習の提案				
T	生産者との結びつき				
U	その他				





